

88th—89th

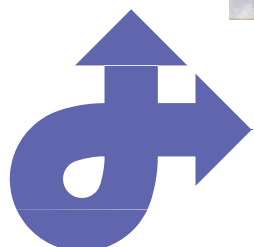
新制作

SHINSEISAKU

2026
会報

新制作協会

vol.83



89回新制作展の開催に向けて 委員長 岩間弘

—新制作についてのこと—

新制作協会の創立は91年前になります。1945年と2020年に戦争とコロナ渦で休会しましたので新制作展は89回目を迎えました。

9人の画家から始まった、自由な精神、求めて止まない純粋性、反骨の心は透明感をもって現在に受け継がれています。

絵画、彫刻、スペースデザインの様々な表現と幅広い世代が切磋琢磨し、広い会場に緊張感と広がりのある展示空間を作り上げます。

「新制作には、新しいものが生まれる温床がある。」と言われた大先輩がおられました。それは今も綿々と続いています。様々な価値観が入り乱れる現代において、美術のだいご味と魅力を伝え続けます。休会のない輝かしい未来のために。



2026年度委員
〔代表委員会〕
委員長 岩間 弘（彫刻部）
副委員長 木嶋正吾（絵画部） 金子武志（SD部）
代表委員
●絵画部 菅沼光児 渡邊有葵 片山裕之 小山恵 雄鹿靖二
●彫刻部 森智之 宇多花織 笠井利彦 渡辺尋志
●SD部 野口真理 雨山智子 岡本泰子 深尾雅子
〔合同委員会〕
●会計委員会 ●図録委員会（図録／広告）
●美術館担当委員会 ●広報委員会（広報・PR／会報／HP）
●受賞作家展委員会 ●慶弔委員会 ●美術団体懇話会

第89回新制作展

“The 89th SHINSEISAKU Art Exhibition”



第89回新制作展は下記の日程を予定しております。

国立新美術館
(The National Art Center,Tokyo)

2026年
9月16日(水)－9月28日(月)

開館時間：10:00－18:00（入場17:30まで）
最終日：9/28(月) 14:00終了（入場13:30まで）
夜間開館：9/18・25(金) 20:00終了（入場19:30まで）
9/22(火・祝) 9/23(水・祝) 開館、9/24(木) 臨時開館

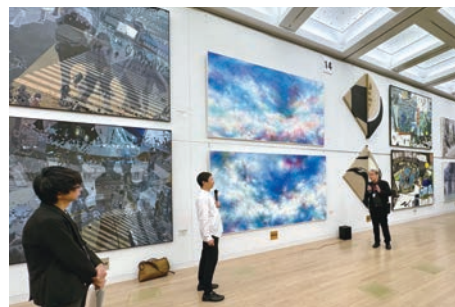
各部より

絵画部 菅沼光児

新制作展への出品を始めて33年。当初は「大きな作品を発表できる場」という認識でしたが、今では公募展が持つ多大な意義を改めて実感しています。個展やグループ展など発表の形態は様々ですが、より多くの方に作品を届ける手段として、公募展は非常に有効な場です。数ある公募団体のなかでも、特に新制作展の展示方法には独自の魅力を感じます。小品から大作まで、また幅広い年齢層による多様な表現の一つひとつを大切に扱い、鑑賞者に寄り添った見やすい展示を追求する姿勢が貫かれているからです。年に一度のこの場は、出品者にとって大きな目標であると同時に、自己研鑽のための貴重な機会となっています。

昨今、AIの普及や気候変動、国際情勢の混乱など、社会は急速に変化しています。こうした不安定な時代に創作活動ができる幸せを噛みしめるとともに、絵画の存在意義を考えずにはいられません。芸術は生活に不可欠な実用品ではないかもしれませんが、混迷を極める現代だからこそ、心に訴えかける表現が必要とされているのではないのでしょうか。

個人の力は微力ですが、公募美術団体という「集合の力」になることで、社会に対してより大きなメッセージを放つことができるはずです。今年も情熱の注がれた力作が集い、新たな刺激に出会えることを心から願っています。



彫刻部 森智之

かけがえのない命やものを破壊する自然災害が近年頻繁に起きています。自然の猛威の前に、本当に強いものは、状況に応じて変化することができる形を留めない水や砂のようなものなのではないかと無力感に苛まれ、制作の手が止まってしまった時期がありました。

ブランクを経て新制作展の会場に足を踏み入れると、初めて新制作展を観た時と同じ感動が沸き起こり、そんな迷いは一瞬で払拭されました。

形あるものは、いつかはなくなって消えてしまうという現実に対抗するように、またそんなことにはいっこうに構わず、目の前の素材と向き合い、生み出された新鮮な形を纏った彫刻たちは、形あることの強さと物質を超えたその存在性を肌で感じさせてくれたからでした。

ただひたすらに、創造とは何か、彫刻とは何か、在ることとは何かを追求する営みは尊いものであると同時に、人が生きていく上で必要なことなのだと純粋に思います。

『35³－サンゴキューブー』部門が開設され4年目を迎えます。新たな彫刻表現へのチャレンジの場と位置付けられた部門です。新制作が掲げる向上と前進の精神で、既成概念を打ち破るような新たな彫刻表現を追求していきます。サイズに限定のない一般公募部門作品と共に展示し、89回展も洗練された良質な空間をお届けできるよう鋭意取り組んでまいりますので、ご期待ください。



スペースデザイン部 野口真理

価値観やライフスタイルの多様化、少子高齢化、年齢層での文化への接し方の変化など、「いま」はざわざわしています。もしかするといつの時代も「いま」はざわざわしていたのかもしれませんが。「いま」だから人の心に『なにか』を伝え、それが心に響く『なにか』——魅力ある表現になるのではと考えます。

スペースデザイン部では多彩な表現が集います。例えば素材には、樹脂、木、紙、糸や布、籐、金属、陶土、ガラス、コンクリート、発砲スチロール・・・際限なく出てきます。新素材が開発されればそれらも対象となります。技法、技術の鍛錬を通して互いに共感する場もあり、空間をつくる時でもあります。

リアルならではの熱気、作品からにじみ出るエネルギーを感じていただき、強くしなやかな『なにか』を受け取って楽しんでいただけるよう努め、来場者を迎えたいと思います。会期中開催のイベントでは皆様に様々な素材の魅力を知っていただく絶好の機会となりますよう企画しております。

協会ホームページでは会場の臨場感が伝わるよう工夫されています。ぜひご覧ください。



第88 回新制作展

審査陳列報告

絵画部

審査陳列委員長 武藤岩雄

今回はデータ審査の応募が18名と昨年より多く、若い人の意欲的な作品を多く見る事が出来ました。展示の新しい展開を目指していますが、これから変わっていく予兆を感じることができました。全体の出品応募者数は354名で作品出品応募数は695点です。入選者数は303名でその入選作品数は335点です。入選者数の内2点入選の方は32名います。受賞の審査の結果7名が新会員となり、新作家賞は8名の方が受賞されました。さらに絵画部賞は8名の方が受賞されました。そしてSONPO賞1名です。展示を行うにあたって、生き生きとよどみのないように掛けなければなりません。幸いに2点作家の作品は力強く、それらが集まると他を圧倒します。流れの中で小作品や入選作品を見て回り、2点作家群がかかると入ると新制作の力を実感することになります。正に出品者の躍動感がみなぎっています。その人に深く根ざした造形の実感が表れた時、人の心をうちます。そのような作品は文句なく入選しますが、時に文学的であったり、趣味的であったりする作品を見かけます。ただ世の中が動いている中での判断ですので、これらを受け入れともすればこれらが時代を切り開く可能性を孕んでいます。新制作は前に進み向上する会であり続けたいと願っています。



彫刻部

審査委員長 柴田正徳

いつの時代にあっても、表現者は新しいテクノロジーの出現に影響を受けずにいられません。私たちは、材質、道具、手順、そしてテーマにおいて最近の革新的な技術がもたらす未知の方向をモノリスに触ろうとする猿のごとく無意識に探っているのかもしれませんが。数年前より始まった「35キューブ」の企画は数こそ極端な増減はありませんが、様々なアプローチを試みる作品が増えてきています。まだ手探り状態で、制作の力強さは無いとしても、徐々に何かが生まれる気配を感じることが出来ます。将来この企画が新しい表現の苗床になっていくことを期待します。

陳列担当チーフ 佐善 圭

彫刻は移動が難しいので、入念な事前準備が欠かせません。まず、展覧会の数週間前に出品予定作品の写真を用意します。実際の美術館の空間を思い描きながら、会場図面上に作品サイズの紙片を置き、作品同士の関係や動線をイメージし原案を練り上げておきます。そして、開幕直前に全国から集う委員により最終決定されます。当日は図面に基づいて作品を設置しますが、実際の空間での見え方を確かめながら、一点一点がより美しく輝き、見やすくなるよう細かな調整を重ねていきました。第88回展では、それぞれの作品と丁寧に向き合える印象的な展示を実現することができ、数多くの来場者の皆さまから楽しんで頂けたとの声が寄せられ安堵しております。



スペースデザイン部

審査委員長 伊藤哲郎

例年80点前後の応募作品のうち半数近くがミニアチュールで、審査が別会場となるため、彫刻の出品作品の間をすり抜けて会員がぞろぞろEVで行き来することになります。審査の順番や評価基準は各会員まちまち、リストを手にとりそれぞれの作品と向き合い、馴染みのない素材に当たると「これ、どうよ？」って近くの仲間に声掛ける。素材も工法も多種多様だが、作品にみられる作者の意気込みが、熟練の度合いを超えて評価を左右する場面もあります。88回展は力強い作品が多く寄せられ、表現の方向性も広がったように感じます。デザインの本質はコミュニケーションにあって、作者が何と対話してきたのかに興味がありません。

陳列委員長 今村 敬子

今から18年前、国立新美術館での展示が始まった時、スペースデザイン部ではかなり精巧な会場の立体模型を作り、それを今も活用しています。陳列会議では展示の効果などを想像しながら、まず会員の作品模型を全体にバラバラと配置し、続いて入選作品を形・大きさ・展示方法など検討しながら貼り込みます。

今回は宙吊り作品が多く、作業が始まってから予定通りに吊れないことがわかり、変更ということもありましたが、何とかすっきり展示できたかと思います。作品が見やすく、会場のどの場所も、魅力的な展示空間になるように心がけています。



新会員紹介



五十嵐学

大気や光といった定型を持たないものをテーマとし曖昧さを肯定した作品を制作する上で、頂く見解や会場での作品の見え方を重要な指針としております。会員の名に恥じぬよう、より一層の探求を続けてまいります。

2008年 第72回新制作展 初入選
2009年 多摩美術大学大学院 絵画専攻油画修了
2024年 個展 うしお画廊（東京）
第87回新制作展 新作家賞受賞



萩野谷弘子

学生の時から深い関心と敬意を寄せてきた新制作協会。子育てが一段落した頃より新制作展に出品を重ね、このたび会員としてご推挙いただき、身の引き締まる思いでおります。これからも表現の深化を目指して、今後も研鑽を重ねてまいります。

1977年 茨城大学教育学部美術科卒業
2000年 第64回新制作展 初入選
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞
神奈川県女流美術家協会会員



山口蒼平

アートとは、自分と向き合いながら頭の中にある輝きを探しだす小さな冒険なのかもしれません。そしてそれは永遠の目標なのだと思います。本能のままに自由な精神で、今後も表現の幅を広げていきたいと思っています。

1990年 名古屋生まれ
2015年 名古屋芸術大学大学院美術研究科美術専攻 同時代表現研究修了
2013年 第77回新制作展 新作家賞受賞
2014年 公募団体ベストセレクション美術2014 出品
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞



小川あぐり

50年も絵を描き続けてこられたのも、若い頃の楽しい制作、大好きな先生、絵のお仲間恵まれたから、絵を描くのが楽しいという心はしばみません。この度新会員にして頂き心より御礼申し上げます。人生の半ば以上を絵と共に生きて来ることができたのも新制作の皆様方の励ましのおかげです。体力も弱ってきておりますが、お役に立てますよう頑張りたく思います。宜しくお願い申し上げます。

1941年 神奈川県生まれ
1992年 第56回新制作展 初入選
2015年 第79回新制作展 新作家賞受賞



浜本忠比古

会員に至るまでには多くの会員の先生方にご指導、励ましをいただきました。又新制作展に出品されている方々の励ましもありました。どれほどの糧になったか計り知れません。ありがとうございました。会員になれば自由に肩の力が抜けて描ける、今までとは違う風景を見られると思っていましたが会員という重圧にひとつの作品が容易に生まれて来ません。これが新制作協会の舞台なのかと思い知らされました。作品に会員としての責任と自負を持って精進いたします。

2022年 第85回新制作展 絵画部賞受賞
2023年 第86回新制作展 絵画部賞受賞
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞

彫刻部



加藤有造

私は、今までは人物の形を借りて立体作品を制作していましたが、これからは表現の幅を広げるため風景、魚、動物などの形を借りて作品を作りたいと思います。素材の方も今までは、漆を使い乾漆技法で制作していましたが、他に鉄、ステンレスなどを組み合わせて、もう一度素材感を見つめ直し表現方法の研究も試したいです。

1983年 神奈川県生まれ
2006年 文星芸術大学入学
2009年 第73回新制作展 初入選 毎回入選
2012年 文星芸術大学博士課程前期修了
2016年 第80回新制作展 新作家賞受賞
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞



北村多希子

新制作展を初めて拝見した際の感動を胸に、このたび会員に推挙いただきましたことを心より感謝申し上げます。今後も絵を描く喜びを忘れず精進してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

2020年 京都芸術大学美術科（通信課程）卒業
2022年 第75回関西新制作展 初入選・
関西新作家賞受賞
第85回 新制作展 初入選・絵画部賞受賞
2023年 第76回関西新制作展 関西新作家賞受賞
第86回新制作展 新作家賞受賞
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞



平川きみ子

自然が大好きで、その美しく、素晴らしい一瞬その一角に遊び心を入れて、自分らしさが表現出来ればと、日々模索しております。この度は、新会員に推挙頂きまして心より感謝申し上げます。新制作の会員として恥じない様に一層精進して参ります。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

1952年 千葉県生まれ
1987年 第51回新制作展 初入選
2024年 第87回新制作展 新作家賞受賞

スペースデザイン部



鈴木未都

この度は会員にご推挙いただき、ありがとうございます。紙を素材に作品を作り始めて30年くらいになります。こんなに長く続けるとは思いもしませんでした。ワクワクする気持ちを大事に、これからも続けていきたいと思っています。

1970年 東京生まれ
1995年 武蔵野美術大学 造形学部
基礎デザイン学科卒業
2013年 第77回新制作展 新作家賞受賞
2023年 第86回新制作展 新作家賞受賞

第88 回新制作受賞作家展

新制作展では、優秀作品に協会賞、新作家賞を授与し、受賞者には、当協会各部主催の受賞作家展を企画しています。第88 回展の新制作受賞者（協会賞・新作家賞）の展覧会が開催されました。

絵画部

ギャラリームサシ

2026年3月23日（月）－28日（土）

岩崎薫、岡田峰子、神田恭子、黒川富栄、蕎麦谷慶子、多賀琢也、丹治智陽、藤川妃都美



1



2



3



4



5



6



7



8

1. 岩崎薫《ANOTHER WORLD》S60号
2. 岡田峰子《いつもの街》S60号
3. 神田恭子《時-with my favorite》S60号
4. 黒川富栄《心よ では行っておいで》S60号
5. 蕎麦谷慶子《なつかしき未来 ジャンクバイン》S60号
6. 多賀琢也《ハンマーヘッド》F60号
7. 丹治智陽《線路沿いの風景》F50号
8. 藤川妃都美《浮舟》S60号



賞牌 《野薔薇》

受賞者に向けて

いつも通る川沿いの散歩道で出会った少女。野薔薇の花咲く道沿いに座った少女、手掌にのせた花に話しかけているようなしぐさにひかれ、後日その印象を粘土で作ってみた。私が新制作展に出品を始めたのは1967年のことでした。本郷先生をはじめとする日本で最も先駆的な思想の下に彫刻に取り組んでいる会へのあこがれの気持ちからであったと当時を振り返って鮮明に記憶しております。

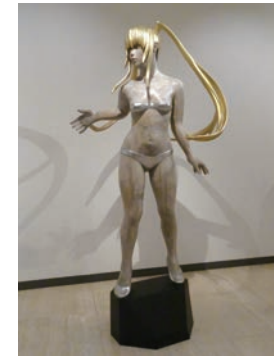
彫刻部 山本正道

彫刻部

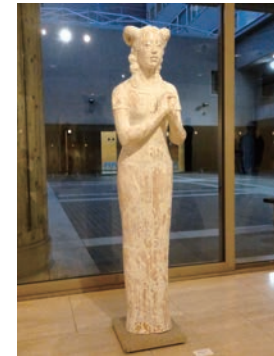
建築会館ギャラリー

2026年2月16日（月）－21日（土）

有賀也寸志、岡田杏、荻野和彦、川崎知子、多田裕、仲田耕治、松川美喜子



9



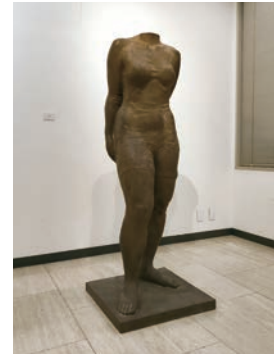
10



11



12



13



14



15

9. 有賀也寸志《Alice2026》W96 × D70 × H200cm 楠、FRP
10. 岡田杏《お折りし、羊》W35 × D25 × H160cm 陶
11. 荻野和彦《こもれば1》W40 × D80 × H40cm 樹脂
12. 川崎知子《揺蕩う1》W45 × D52 × H52cm W45 × D45 × H50cm テラコッタ（組作品）
13. 多田裕《立》W56 × D56 × H185cm FRP
14. 仲田耕治《智・修羅》W70 × D50 × H170cm 木
15. 松川美喜子《26の記憶》W27 × D20 × H124cm FRP

スペースデザイン部

建築会館ギャラリー

2026年2月1日（日）－7日（土）

関谷駿、中根啓、福島夕貴、録澤壽雄

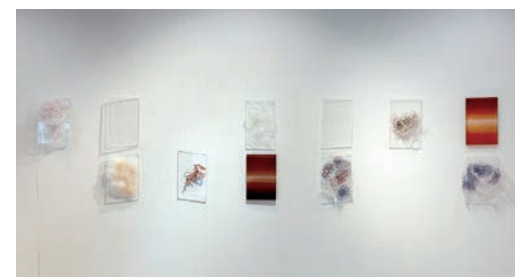
16. 関谷駿《燈》W150 × D150 × H150cm 木材
17. 中根啓《樹訪》W40 × D52 × H93cm ウォールナット、栗、樺
18. 福島夕貴《cycle》W175 × D10 × H60cm アクリル板、ナイロン糸
19. 録澤壽雄《縄文の樹Ⅰ、Ⅱ》各W210 × D30 × H270cm 尾久杉、楮雲竜紙、再生綿紙、麻糸



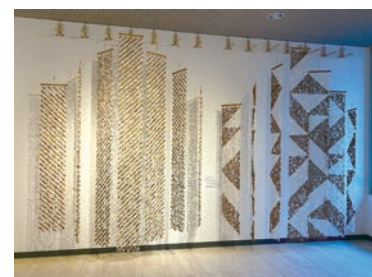
16



17



18



19

巡回展開催案内

新制作展は東京の国立新美術館での展覧会を終えた後、京都と名古屋で地方巡回展を開催しています。京都展は京都市京セラ美術館にて、名古屋展は愛知県美術館ギャラリー（愛知芸術文化センター8階）にて、どちらも3部合同での開催です。国立新美術館に比べると展示される作品数は減りますが、国立新美術館とは違った展示レイアウトやそれぞれの美術館の採光、内装や天井の高さの違いによる作品の見え方の変化など、作品をより深く味わえる機会にもなっています。紅葉が始まり景観の美しさを増す秋の京都と名古屋へも、ぜひ足をお運びください。

「第89回新制作展 京都展」

会期：2026年11月3日（火）－8日（日）

会場：京都市京セラ美術館

「第89回新制作展 名古屋展」

会期：2026年11月25日（水）－29日（日）

会場：愛知県美術館ギャラリー



第88回巡回展の様子



表紙作品

宮田保史 《ペルソナ`89（カプリ島）》

第53回新制作展出品

1989年 H162 × W162 cm

若き日の一時期ローマ美術大学のフランコ・ジェンティリーの教室で人体をモデルにして描き続けました。人体モチーフであっても、その表現方法は個人に委ねられていました。日本との教育の違いを痛感しました。私は既に都会的感性に魅せられて展覧会に出品していましたが帰国後は落選が続きました。魅せられ、憧れだけで出品するのではなく、見る者の心に響くもの、感動の激しさが発想の転換を模索しました。ゲオルグ・グロッスやピカソを通してカリカチュアを求めました。それがペルソナシリーズです。当時の朝日ジャーナル（1973年12月7日号）の表紙になりました。シェル賞、日伯賞、宇部賞などを受賞しました。1980年に会員になったわけですが、人物中心の作風から、惚れたイタリアの古里としてその心象風景を作画するようになりました。

（下に掲載の作品）

今や初心の頃の情熱があたかもドライフラワーになり、作品に対して目を楽しませるだけのむなしさがつきまとっていることもしばしばです。表紙絵の原稿を書くことで次へのステップの弾みになる機会になればと願っています。



《伊太利亜2014（人魚伝説のあるポジターノ）》

第78回新制作展出品

2014年 H194 × W261cm

訃報（2026年3月現在） 新制作協会発展に尽力されました故人を偲び、心よりご冥福お祈り申し上げます。

加藤鉦次 氏
絵画部会員

2025年
10月5日 逝去
（享年77歳）



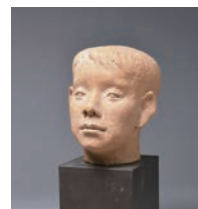
熊沢淑 氏
絵画部会員

2025年
11月30日 逝去
（享年94歳）



日比野知三 氏
彫刻部会員

2025年
9月21日 逝去
（享年88歳）



編集後記

昨年、この会報の編集に携わらせていただいています。リモートでの会議が普及し、私のような地方在住者も編集の仕事のお手伝いができるようになりました。編集作業に携わることで、私たち地方在住者には巡回展の運営があるとはいえ、在京の皆様方がたくさんの協会の仕事を担ってくださっていることを改めて実感いたしました。そして、会報が会員、出品者の方々、全国各地の新制作に心を寄せていらっしゃる皆様を結ぶ大切なツールであることにも今更ながら認識させられる編集作業となりました。

今号もお忙しい中、原稿執筆をお引き受けいただいた皆様、ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。（高橋）

新制作協会事務所

〒160-0022
東京都新宿区新宿6丁目
28番10号 大阪屋ビル202号

TEL：03-6233-7008

FAX：03-6233-7009

Mail: webmaster@shinseisaku.net

www.shinseisaku.net

発行 新制作協会
発行日 2026年5月

監修
岩間弘

企画・編集・制作
広報委員会広報誌編集委員会
小島隆三、高橋正樹、新美正樹、
土井宏二、雨山智子

デザイン
SHIMA ART&DESIGN STUDIO



新制作協会



会報誌バックナンバー